

【研修一様式2】

「平成31年度研究実践園研修事業」実施報告書

| | | | |
|----------------|--|------|-------|
| 園名 | 札幌市立もいわ幼稚園 | 園長氏名 | 笹山 雅司 |
| 演題 講師 日時 | <p>「医療でできること、教育でしかできないこと」 札幌市子ども発達支援総合センター診療担当部長 末田 慶太郎 氏 令和元年10月29日（火） 15:30～16:45</p> | | |
| 研修内容 | <p><講演></p> <p>○医療現場の実態としては、混雑さがある。1回の診察で診断がつくわけではない。保護者と信頼関係を作ってから診断を伝える等、伝えるタイミングが難しい。発達をみる小児科、児童精神科の現状は、新患になると数ヶ月待ちである。医療に限らず、教育、デイサービスなどネットワーク作りが大切であり、それぞれが互いに顔が分かるようになると連携を取りやすい。</p> <p>○発達障害については同じ診断名でも個人差が大きい。幼児期には、保護者が安全基地になり、健康な体を作っていくことが大事である。</p> <p>○教育の現場では、子どもの困りに寄り添い、園、学校が楽しい、先生が好きという思いをもってほしい。子どもの良いところを見つけ、クラス内での子どもの居場所を作ってほしい。成功体験につながるためには、スモールステップが自信となっていく。保護者支援においては、保護者の安心が子どもの安定、成長へ繋がっていく。</p> <p><質疑・応答></p> <p>○医療に何とか繋げたいケースの時に、医療機関で「大丈夫です」と言われて伝わった時に、保護者がその言葉にすがり安心してしまうケースがあった。その場合どのようにそのに対応していけばよいか。</p> <p>→医者によって診断に差がある。私は「今は大丈夫だけど、今後は〇〇な心配があるね」と伝える。信頼できる病院の先生を知ること、地域との繋がりを作っておくことなどが大事であると考えているが、難しい問題である。など。</p> | | |
| 研修の成果 | <p>○医療現場の混雑さ、診察の実態等について知ることができた。すぐにでも医療にかかりたいと思っても混んでいて行けない、という現状が多いという声が質疑応答でも上がった。発達障害への理解も深まり、受診したい人は増えているが、必ずしも病院に繋がなくても、しっかりと子どもの姿、支援の手立てなどを保護者と共有し、伝えていくことを大事にするという考えもある。そのような連携の在り方の課題について参加者で共有することができ、共に考える機会となった。</p> | | |

